

金重有邦

生まれくるもの

KANESHIGE YUHO, Emerging Forms



2012年1月21日[土]～3月31日[土]

菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-35 西久保ビルB1F

TEL03-5733-5131 FAX03-5733-5132

<http://www.musee-tomo.or.jp>

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。当館の次回展覧会、「金重有邦 生まれくるもの」展についてのご案内をさせていただきます。

金重有邦（かねしげ・ゆうほう）氏は、昭和25（1950）年、岡山県備前市伊部に、陶芸家、金重素山（そざん）の三男として生まれ、武蔵野美術大学で彫刻を学んだのち、父のもとで陶芸を始めました。父、素山（1909～95）は、備前焼中興の祖とされる兄、金重陶陽（とうよう 1896～1967）とともに、桃山時代に焼造された古備前の土味と焼け成りを求めてその再興に尽力し、ことに火禰（ひだすき）の焼成に創意工夫し、現代の備前焼の展開に大きな影響を及ぼしました。

有邦氏の作陶も、彼ら二人が築いた礎の上にあるものですが、2002年頃からは、陶陽が見出した上質な「田土（たつち）」の代わりに自ら吟味した「山土（やまつち）」を用い、土に合った成形技術や新しい窯による焼成法を探求し、独自の作風を展開しています。「山土」ならでの土味と焼け成りを追求した造形は、陶陽、素山からの離脱を示し、新しい備前焼のあり方への示唆に富んでいます。

「生まれくるもの」と題した本展では、この10年間に制作された作品のなかから厳選したおよそ60点の花入、水指、甕、茶器、茶碗を展覧いたします。「山土」から生み出された造形の数々、また、大甕制作への挑戦とその後の展開など、作陶の変遷と深まりをご覧ください。つきましては展覧会の概略をご案内申し上げます。本展を多くの皆様にお知らせいただき、周知にご協力を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

敬具

■■■展覧会概要■■■

- 展覧会名 金重有邦 生まれくるもの
- 会期 2012年1月21日(土)～3月31日(土)
- 観覧料 一般 1,000円／大学生 800円／小中高生 500円
- 主催 財団法人菊池美術財団
- 会場 菊池寛実記念 智美術館（〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-35 西久保ビル）
<http://www.musee-tomo.or.jp>
- 開館時間 午前11時から午後6時まで（入館は午後5時30分まで）
- 休館日 毎週月曜日
- 展示内容 陶芸家・金重有邦氏の作品約60点により構成
- 関連行事 会期中、講演会、対談、学芸員による展示解説、及びナイトミュージアム西洋館見学会を開催（詳細はリリース4頁参照）。

展覧会に関するお問い合わせ 担当：花里、島崎（☎03-5733-5131 / FAX03-5733-5132）

■■■ 展覧会内容のご案内 ■■■

備前、焼締め陶の流れ

備前の地で焼締め陶の焼造をはじめたのは平安時代末期とされています。須恵器の技術を継承した灰青色の肌が、現在のような茶褐色の色合いとなったのは室町時代の頃のことです。当時の生産の中心は、壺や甕、播鉢などの日用雑器でした。「投げても割れない」という堅牢な製品は、西日本をはじめ日本国中に流通していました。

室町中期になると、それらの素朴な器は、茶の湯において「冷え枯れた」美意識を表象するものとして、茶道具に見立てられ、使われるようになります。やがて、桃山の頃には花入や水指など茶の湯を目的とした器が焼造され、備前焼は茶の湯に欠かせない存在となりました。

「古備前」とは、江戸初期以前に焼造された備前焼の総称ですが、なかでも桃山時代の茶陶は、可塑性の高い田土を轆轤で引き上げた造形で、歪みや篋目、豪快な窯変などを特徴とし、当時の陶工の気概、息遣いを感じさせるものです。有邦の伯父、陶陽が着目したのも、それらの活力に満ちた造形でした。彼は、弟の素山とともに、桃山風の備前焼を復興するべく、田土という理想的な胎土を見だし、小ぶりの登窯を新たに築き、昭和の備前焼の展開に大きな影響を及ぼしました。



伊部耳付花入 2006年 高26.0cm



金重有邦の造形—古備前を超えて

有邦氏の作陶も陶陽、素山兄弟の恩恵を受けて出発し、彼もまた備前焼の歴史、伝統を継承し、茶陶の制作に軸足を置いています。その一方で、未来を模索し、独自の作風を展開させてきました。

2002年頃からは、上質の「田土」の代わりに、自ら吟味した「山土」を用い、新たな登窯を築いて焼成しています。山土は、田土にくらべて可塑性が低く、一気呵成に仕上げることとなりますが、土に寄り添うがごとくの造形は、有邦氏の轆轤のリズムと、土の素朴な味わいとの融合を見せています。また、2006年の大甕の制作を経て考案した紐作りと轆轤を組み合わせた独自の成形法は、フォルムの自在さやダイナミックな焼け成りなど、作品に重厚さをもたらしています。

こうした作家の試みは、陶陽のもたらした、桃山備前を拠り所としてきた造形観からの離脱であり、焼締め陶の「土」と「焼き」の魅力を再発見させてくれるものです。

* 田土…田んぼの地下から掘り出される、可塑性の高い土のこと。

* 山土…有邦氏の場合は、主に田土のやや上の層にあるざっくりとした土のこと。

左上 伊部花入 2007年 高さ28.2cm

左下 伊部花入（手前2点）、伊部火燗花入（奥の作品）2010年 高さ32.0～35.5cm



■■■ 展覧会関連行事 ■■■

展覧会会期中、下記の関連行事を開催いたします。関連行事によっては、会場の都合により、満席となる場合がございます。予めご了承くださいませようお願い申し上げます。

■ 講演会・対談・鼎談

- I. 講演会 「金重陶陽、素山、有邦について」
林屋晴三（当館館長） 1月28日（土）
- II. 対談① 「作家と語る①—備前焼の今と未来」
唐澤昌宏氏（東京国立近代美術館工芸課長）＋金重有邦氏 2月18日（土）
- III. 鼎談 「1950年生まれの僕ら—受け継いできたこと、変えたいこと」
隠崎隆一氏（陶芸家）＋川瀬忍氏（陶芸家）＋金重有邦氏 3月3日（土）
- IV. 対談② 「作家と語る②—茶の湯における焼締め陶について」
赤沼多佳氏（三井記念美術館参事）＋金重有邦氏 3月10日（土）

当館 B1 階展示室にて いずれも午後 3 時より（観覧料のみ、聴講無料）

■ ナイト・ミュージアム 【「見る」「触れる」「聴く」～作家とともに～】

- ・「触れる」会 立礼茶会、作家とミニトーク 2月18日（土）
席主＝林屋晴三
- ・「聴く」会 能管ライブ＋作家とミニトーク 3月3日（土）
演奏＝藤田六郎兵衛氏（能楽笛方藤田流 11 代宗家）
- ・「見る」会 生け花ライブ、作家とミニトーク 3月10日（土）
講師＝武内範男氏（日本文化史研究家）

当館 B1 階展示室にて いずれも午後 6 時半より（開場＝午後 6 時）

参加費 お一人様 3,000 円（観覧料を含みます） ＊招待券ご持参の方は 2,000 円となります。
定員＝およそ 50 名様 お申し込みは当館まで（電話 0 3 - 5 7 3 3 - 5 1 3 1）

● 学芸員によるギャラリートーク

2月4日（土）、11日（祝・土）、25日（土）、3月17日（土）、24日（土）…各日 14 時より

■ 西洋館見学会 （予約制・定員 20 名様）

2月18日（土）／3月17日（土） 各日 11 時より

当館敷地内の西洋館（登録有形文化財）は、大正時代に建てられた後、修復を重ねながらも建具等の室内装飾が丁寧に保全され、今日まで使用されている希少な建物です。通常非公開の内部を、展覧会の期間中に特別公開いたします。

※西洋館のご案内（建築家 篠田義男氏による）、美術館観覧料（学芸員の解説付き）、レストラン ヴォワ・ラクテでのランチを含め、お一人様 8,000 円です。

作家略歴

金重有邦 (かねしげゆうほう、1950/昭和 25 年ー)



- 1950 岡山県備前市伊部に、金重素山の三男として生まれる。
- 1971 武蔵野美術大学彫刻科に学ぶ。父のもとで陶芸の道に入る。
- 1980 初個展(岡山高島屋)。以後、各地にて個展を開催。
- 2002 日本陶磁協会賞を受賞。この頃から、山土を使うようになる。
- 2003 個展「有佛」(壺中居、日本橋)。
- 2004 個展「伊部井戸」(現代陶芸寛土里、ホテルニューオータニロビー階)。
- 2005 新窯を築窯する。新窯展「Going, Going, Gone」(しぶや黒田陶苑)、
翌年にかけて新窯展を和泉玉箒堂(大阪)、天満屋岡山店、福山店で開催。
- 2006 個展「壺中在天」(壺中居)。大甕の制作をする。
- 2007 個展「天恵ーめぐみ」(高島屋大阪店)。 2008 個展「ことのは」(しぶや黒田陶苑)。
- 2009 個展「下戸の酒器展」。 2010 個展「ユラギ」(岡山天満屋)。

貸出し画像

※掲載にあたっては、貸出し申込書リストのキャプションを表記のとおり入れてください。



① 伊部耳付壺水指



② 伊部耳付茶器



③ 伊部鑿口花器(2本とも)



④ 伊部耳付花入



⑤ 伊部水指



⑥ 伊部茶盃

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースで紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸し出す画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

掲載に関するお問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館（担当：花里、島崎）

TEL.03 (5733) 5131 FAX.03 (5733) 5132 <http://www.musee-tomo.or.jp/>

掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX：03-5733-5132

●貴社基本情報

会社名：	
担当部署：	担当者名：
住所：	
電話	ファックス：
E-MAIL：	

●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名：
	発行日：
TV ラジオ	媒体名：
	放送日：
ネット	URL：

●画像貸出リスト ※キャプションには作者/作品名/制作年、撮影者を必ず入れてください。サイズの単位はcm。

希望作品に☑	作品キャプション
<input type="checkbox"/>	① 伊部耳付壺水指 2005年、高26.7×26.0×26.0（撮影：尾見重治、以下同様）
<input type="checkbox"/>	② 伊部耳付茶器 2006年、高8.5×5.7×5.6
<input type="checkbox"/>	③ 伊部鏝口花器 2009年、（左）高68.2×17.2×16.7 （右）高64.7×16.1×16.9
<input type="checkbox"/>	④ 伊部耳付花入 2010年、高22.3×13.0×10.7
<input type="checkbox"/>	⑤ 伊部水指 2011年、高17.2×26.0×25.5
<input type="checkbox"/>	⑥ 伊部茶盤 2011年、高8.9×13.0×12.5

●読者プレゼント用チケット希望： 5組10名様 10組20名様